

1

解答解説のページへ

関数 $f(x) = x^3 + 2x^2 - 4x - 3$ に対し、曲線 $y = f(x)$ 上の点 $P(-1, f(-1))$ における接線の方程式を $y = g(x)$ とする。関数 $h(x)$ を、 $h(x) = x(x+1)(x-1) + g(x)$ と定める。このとき、次の問いに答えよ。

- (1) 接線の方程式 $y = g(x)$ を求めよ。
- (2) $y = f(x)$ と $y = g(x)$ との共有点のうち、 P と異なる点を Q とする。曲線 $y = h(x)$ が点 P, Q を通ることを示せ。
- (3) 2つの曲線 $y = f(x)$ と $y = h(x)$ とで囲まれる部分の面積を求めよ。

2

解答解説のページへ

平面上の $\triangle ABC$ で $AB = 4$, $BC = 5$, $AC = 3$ となるものを考え, $\triangle ABC$ の外接円の中心を O とする。また, 辺 AC を $1:5$ に内分する点を P とする。このとき, 次の問いに答えよ。

- (1) $\cos \angle ABC$ と $\cos \angle AOC$ の値をそれぞれ求めよ。
- (2) $|\overline{OP}|$ と $\cos \angle POC$ の値をそれぞれ求めよ。
- (3) 内積 $\overline{OB} \cdot \overline{OP}$ の値を求めよ。
- (4) 点 B と点 P を通る直線が $\triangle ABC$ の外接円と交わる点で B と異なる点を Q とする。 \overline{OQ} を \overline{OB} と \overline{OP} を用いて表せ。

3

解答解説のページへ

次の問いに答えよ。

- (1) n を整数とすると、1 次不定方程式 $3x + 5y = n$ の整数解をすべて求めよ。
- (2) 0 以上 7 以下の整数 n のうち、0 以上の整数 x, y を用いて $n = 3x + 5y$ と表せないものの個数を求めよ。
- (3) 8 以上のすべての整数 n は、0 以上の整数 x, y を用いて $n = 3x + 5y$ と表せることを示せ。

1

問題のページへ

- (1) $f(x) = x^3 + 2x^2 - 4x - 3$ に対して $f'(x) = 3x^2 + 4x - 4$ となり、曲線 $y = f(x)$ 上の点 $P(-1, f(-1))$ における接線の方程式は、 $f(-1) = 2$ 、 $f'(-1) = -5$ から

$$y - 2 = -5(x + 1), \quad y = -5x - 3$$

- (2) $g(x) = -5x - 3$ より、 $y = f(x)$ と $y = g(x)$ の共有点は、 $f(x) = g(x)$ から、

$$x^3 + 2x^2 - 4x - 3 = -5x - 3, \quad x^3 + 2x^2 + x = 0, \quad x(x+1)^2 = 0$$

$P(-1, 2)$ 、 $Q(0, -3)$ となり、ここで、 $h(x) = x(x+1)(x-1) + g(x)$ に対し、

$$h(-1) = g(-1) = 2, \quad h(0) = g(0) = -3$$

これより、曲線 $y = h(x)$ は点 P, Q を通る。

- (3) 曲線 $y = f(x)$ と $y = h(x)$ の共有点は、 $f(x) = h(x)$ から、

$$x^3 + 2x^2 - 4x - 3 = x^3 - x + (-5x - 3), \quad 2x^2 + 2x = 0, \quad 2x(x+1) = 0$$

これより、 $x = -1, 0$ となり、共有点は点 P, Q だけである。

ここで、 $-1 \leq x \leq 0$ において、 $f(x) - h(x) = 2x^2 + 2x = 2x(x+1) \leq 0$ となり、 $f(x) \leq h(x)$ から、曲線 $y = f(x)$ と $y = h(x)$ で囲まれる部分の面積 S は、

$$S = \int_{-1}^0 \{h(x) - f(x)\} dx = \int_{-1}^0 -2x(x+1) dx = -2 \cdot \left(-\frac{1}{6}\right) \cdot (0+1)^3 = \frac{1}{3}$$

[解説]

基本的な微積分の総合問題です。図を描くまでもありません。

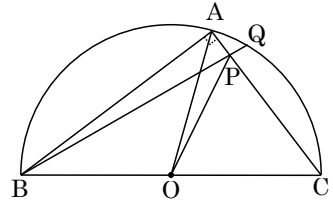
2

問題のページへ

- (1) $\triangle ABC$ において、 $AB=4$ 、 $BC=5$ 、 $AC=3$ より
 $\angle BAC=90^\circ$ となり、 $\cos\angle ABC=\frac{BA}{BC}=\frac{4}{5}$ である。

また、外接円の中心 O は斜辺 BC の中点であり、

$$\begin{aligned}\cos\angle AOC &= \cos 2\angle ABC = 2\cos^2\angle ABC - 1 \\ &= 2 \cdot \left(\frac{4}{5}\right)^2 - 1 = \frac{7}{25}\end{aligned}$$



- (2) (1)より、 $|\overrightarrow{OA}|=|\overrightarrow{OB}|=|\overrightarrow{OC}|=\frac{5}{2}$ であり、 $\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OC} = \frac{5}{2} \cdot \frac{5}{2} \cdot \frac{7}{25} = \frac{7}{4}$
 さて、 $AP:PC=1:5$ より、 $\overrightarrow{OP} = \frac{5}{6}\overrightarrow{OA} + \frac{1}{6}\overrightarrow{OC} = \frac{1}{6}(5\overrightarrow{OA} + \overrightarrow{OC})$ となり、

$$|5\overrightarrow{OA} + \overrightarrow{OC}|^2 = 5^2 \cdot \left(\frac{5}{2}\right)^2 + 10 \cdot \frac{7}{4} + \left(\frac{5}{2}\right)^2 = \frac{720}{4} = 180$$

よって、 $|\overrightarrow{OP}| = \frac{1}{6}|5\overrightarrow{OA} + \overrightarrow{OC}| = \frac{1}{6}\sqrt{180} = \sqrt{5}$ である。

また、 $\overrightarrow{OC} \cdot \overrightarrow{OP} = \overrightarrow{OC} \cdot \left(\frac{5}{6}\overrightarrow{OA} + \frac{1}{6}\overrightarrow{OC}\right) = \frac{5}{6} \cdot \frac{7}{4} + \frac{1}{6} \cdot \left(\frac{5}{2}\right)^2 = \frac{60}{24} = \frac{5}{2}$ から、

$$\cos\angle POC = \frac{\overrightarrow{OC} \cdot \overrightarrow{OP}}{|\overrightarrow{OC}| |\overrightarrow{OP}|} = \frac{\frac{5}{2}}{\frac{5}{2} \cdot \sqrt{5}} = \frac{1}{\sqrt{5}}$$

- (3) (2)から、 $\overrightarrow{OB} \cdot \overrightarrow{OP} = -\overrightarrow{OC} \cdot \overrightarrow{OP} = -\frac{5}{2}$

- (4) $|\overrightarrow{BP}|^2 = |\overrightarrow{OP} - \overrightarrow{OB}|^2 = 5 - 2 \cdot \left(-\frac{5}{2}\right) + \left(\frac{5}{2}\right)^2 = \frac{65}{4}$ となり、 $BP = \frac{\sqrt{65}}{2}$ である。

ここで、方べきの定理から $BP \cdot QP = AP \cdot CP$ となり、 $AP = \frac{1}{2}$ 、 $CP = \frac{5}{2}$ から、

$$QP = \frac{AP \cdot CP}{BP} = \frac{\frac{1}{2} \cdot \frac{5}{2}}{\frac{\sqrt{65}}{2}} = \frac{5}{2\sqrt{65}} = \frac{\sqrt{65}}{26}$$

これより、 $BP:QP = \frac{\sqrt{65}}{2} : \frac{\sqrt{65}}{26} = 13:1$ となり、点 Q は線分 BP を $(13+1):1$ 、すなわち $14:1$ に外分することより、

$$\overrightarrow{OQ} = \frac{-\overrightarrow{OB} + 14\overrightarrow{OP}}{14-1} = -\frac{1}{13}\overrightarrow{OB} + \frac{14}{13}\overrightarrow{OP}$$

[解説]

平面ベクトルの図形への応用問題です。上記の解答例以外に、いろいろな方法が考えられます。

3

問題のページへ

- (1) 不定方程式 $3x + 5y = n$ (n は整数)……①に対して、①を満たす 1 組の (x, y) として、 $(x, y) = (2n, -n)$ をとると、

$$3 \cdot 2n + 5 \cdot (-n) = n \cdots \cdots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1}\textcircled{2}\text{より, } 3(x - 2n) + 5(y + n) = 0, \quad 3(x - 2n) = -5(y + n)$$

3 と 5 は互いに素なので、 k を整数として、 $x - 2n = 5k$ 、 $y + n = -3k$ と表せ、

$$x = 5k + 2n, \quad y = -3k - n$$

- (2) 整数 x, y ($x \geq 0, y \geq 0$) を用いて、 $n = 3x + 5y$ と表せる整数 n ($0 \leq n \leq 7$) について、 $y \geq 2$ のときは $n \geq 10$ となり不適なので、 $y = 0, 1$ のときを考えると、

- (i) $y = 0$ のとき

$n = 3x$ かつ $0 \leq n \leq 7$ から $x = 0, 1, 2$ となり、 $n = 0, 3, 6$ を表すことができる。

- (ii) $y = 1$ のとき

$n = 3x + 5$ かつ $0 \leq n \leq 7$ から $x = 0$ となり、 $n = 5$ を表すことができる。

- (i)~(ii)より、 $n = 3x + 5y$ と表せる整数 n は、 $n = 0, 3, 5, 6$ である。

したがって、 $n = 3x + 5y$ と表せない整数 n ($0 \leq n \leq 7$) は、 $n = 1, 2, 4, 7$ となり、その個数は 4 である。

- (3) 整数 x, y ($x \geq 0, y \geq 0$) を用いて、 $n = 3x + 5y$ と表せる整数 n ($n \geq 8$) について、

- (i) $y = 0$ のとき

$n = 3x$ かつ $n \geq 8$ から $x \geq 3$ となり、 n は 9 以上の 3 の倍数 ($n = 9, 12, 15, \dots$) を表すことができる。

- (ii) $y = 1$ のとき

$n = 3x + 5 = 3(x + 1) + 2$ かつ $n \geq 8$ から $x \geq 1$ となり、 n は 8 以上の 3 で割った余りが 2 の整数 ($n = 8, 11, 14, \dots$) を表すことができる。

- (iii) $y = 2$ のとき

$n = 3x + 10 = 3(x + 3) + 1$ かつ $n \geq 8$ から $x \geq 0$ となり、 n は 10 以上の 3 で割った余りが 1 の整数 ($n = 10, 13, 16, \dots$) を表すことができる。

- (i)~(iii)より、 $n = 3x + 5y$ は 8 以上のすべての整数を表すことができる。

[解説]

有名な整数問題の 1 つです。なお、2000 年度の阪大・理系に誘導なしで同じ問題が出題されていますので「2 次数学ランドマーク／整数と数列」を参照してください。